

# ネットワーク 月山

## 9月のブナの森に思う

7月号で今年の降雨量が少ないと話題に挙げましたが、それから今夏ずっと降雨は少なく、逆に気温は上がり真夏日が続きました。それは、9月に入ってから同じで「山が乾燥してるね」「いつまでも暑いねえ」などが挨拶代わりでした。その結果、日常案内コースの月山の湧水が湧水してしまった期間が長くなってしまいました。2010年の9月の記録を見ると、9月中旬から降雨量が多くなりその年の湧水はすぐ戻ったようです。それではこの湧水の湧水はいつごろからの現象なのでしょう？実は記録がないので、スタッフ間の記憶になりますが「むがしはないっけな」って、「むがし」っていつのこと？「むがしは涸れるなんてごどないっけもな」「んだがらむがしっていつ？」「だいたい10年まえだべな」こんな会話で終わってしまいます。

それでもこの湧水はまったく涸れるのではなく、ここはプールされて流れ出る場所なので、そこまで水位が上がらないと飲めないと言う訳で、降雨量が少ない為浸透圧が弱くなって貯まらないのですが、少量の湧水は下部から絶え間なく流れ続けているようです。一日も早く喉と心を潤す湧水が飲める日を待ちたいと思います。

## 森のかるた完成

今年度の9月も地元の中2年生が職場体験として博物館の裏方を体験してくれました。今回も遊歩道整備を中心に、荷縄を使って間伐材を運び地面をならして杭を打つなど、保全グループ有志から仕事の技と流儀が伝授されたようです。もう一つ手伝ってもらったのが、アクティビティ作成の一つとして、みんなが使えるカルタを作りました。タイトルは「森のカルタ」で、自分たちがこれまでブナの森や生活で体験してきたことを文章にした内容で、「あけびはね皮まで食べるぞ山形県民」「タムシバは春を告げるいい香り」「ブナの木は雪に負けない生命力」「西川のみんなの誇りがっさん」などと、カルタをすることで森について学べるような内容になっています。特に小中学生の体験学習の導入や、雨天プログラム時に楽しく学びながら使えるカルタとして利用していきたいと思っています。今後も同様のカルタを増やして「博物館かるた大会」まで発展させようかなとひそかに思っています。その時はどうぞご参加を！

(真鍋)



# 主催イベント

## 自然観察会—二次林の樹木—

9月1日(土)開催 参加者12名

講師: 志謙 節郎氏

今年度の志謙さんの観察会は「二次林」をテーマに、前回の6月は花を、今回は樹木を中心にした観察会を行いました。園内では、炭焼き等で利用するためにミズナラやブナが伐採された跡地が二次林となっていますが、伐採されてから60~70年経った現在は、ミズキ、キハダ、ウワミズザクラ、カエデ、ツツジなど様々な樹種が生え、それらの木々のすき間を埋めるようにヤマブドウやコクワなどのツル植物が生えています。無秩序にゴチャゴチャと生えているように見える二次林の樹木ですが、植物同士にはある一定のルールがあって、競争しながらも環境に応じて棲み分けをしているということです。そして、尾根沿いに多いツツジ類は、菌根菌と共生することで貧弱で養分の少ない場所でも生育可能ということも分かりました。原生林と比較すると植物の種類も多種多様で変化に富んでいる二次林は、歩くほどに奥が深く不思議がいっぱいです。長い時間をかけて変化していく二次林に今後も注目していきたいと思えます。



## 自然観察会—月山の希少種「トリカブト」—

9月9日(日)開催 参加者15名

講師: 沢 和浩氏

7月の希少種観察会に続き、沢氏を講師に園内の希少種「ガッサントリカブト」を観察しました。希少種を観察するにはそれなりの労力が必要です。今回は石跳川沿いの登山道を数キロほど上流に歩いた場所に咲くガッサントリカブトの観察が目的です。何度も歩いたことのある道でそこにトリカブトが咲くのは知っていましたが、それが希少種とは知らずにただ通り過ぎてしまっていました。もう一つ園内で見られるイデトリカブトとの違いはマクロに判別しないと分からないもので、ガッサントリカブトは屈毛、イデトリカブトは開出毛ということで、この違いが分かったときにはちょっと得た気分になりました。移動中には絶滅危惧種で着生植物のヤシャビシヤクを見ることが出来ましたが、皆さんの認知度も低かったようですので、来春に観察会を開催することが決定しましたので、こちらもお楽しみに。



# 共催イベント

## —森を活用するクラブ— 第3回・杉林の手入れ作業

9月22日(土)開催 参加者3名

指導: 吉崎 明氏(山形県森林インストラクター会)

9月に入ってからも30度を越す暑い日が続いていましたが、ここに来てようやく涼しくなり、当日も爽やかで作業しやすい天気の中快適に山仕事を楽しむことが出来ました。今回も間伐を中心とした作業で、細い木から太い木まで6本を倒しました。倒した間伐材は前回同様、園内の遊歩道の補修材として利用する予定です。前回までに倒した間伐材はすでに遊歩道の上に敷いてあるので、散策の際には是非ご覧になって下さい。また、今回は新たな林地の分析方法として土壌生物の観察方法を学びました。吉崎さんの指導で林地の土を掘り、手作り吸虫管で土壌生物を吸引して観察しました。見つかる生物の種類によって、肥沃な土かそうでないかを判別できるそうです。皆さん興味深く体験していました。間伐の状況は、ゆっくりではありますが着実に面積を広げていて、以前に比べると現場はかなり明るくなりました。今年はあと1回の活動がありますが、来月はキノコ栽培用のナラの伐採や、ホダ木のチラン作業も予定しています。



## 虫こぶあれこれ

みなさん、虫こぶってご存知ですか? 山を歩いていると葉っぱや花などに不思議な形のこぶがついているのを見かけたことはありませんか? 病気かな? なんて思っている人も多いはず。でも、こぶの中にはタマバエやタマバチの卵や幼虫が潜んでいるのです。中には虫こぶの中にいる幼虫に寄生するちゃっかりものの虫までいるようです。自然界は不思議がいっぱい! 我々にははかり知れない世界がまだまだあります。園内でも様々な植物に虫こぶが見られます。今回は、園内で見つけた数ある虫こぶの中から一部を紹介します。ユニークなネーミングにも注目です。(倉本)



ササウオフシ



ヒヨドリバチハチマキフクシ



ヤマブドウハチマキフクシ



ハクウツバハチマキフクシ

# 9月のブナの森 ◆ 実りの秋 ◆

『暑さ寒さも彼岸まで』といいますが、あれだけ30 を超す日が続いたのに、中旬になると過ごしやすく秋の訪れを感じました。森の様子も紅葉を前に静かに、しかし着々と世代を受け継ぐ為に実を結んでいます。

トチ



ツノハシバミ



ハウノキ



アケビ



ヤマブドウ



ツリバナ



オオカメノキ



キブシ

緑の中で鮮やかな色で動物を誘う植物、香り豊かで美味しい果実もあり植物もいろんな戦略を持って、子孫を繁栄させようとしています。9月下旬から10月は『ひつつく種』を生産する植物にはちょっと注意。少し肌寒くなってフリース等の上着を着るようになって、ヤブの中を歩くと、知らぬ間に種を蒔くお手伝いをしていたりします。

上着に付いた種を手で払っても簡単には取れなくて、1つ1つの種を指で摘んで観察して見ると小さな花の種は鉤や棘を

巧い具合に形成して

おり、感心します。散策中、子供達と『ひつつく種』を見つけ、友達の背中を的として、投げて遊んだりします。種を付けるのは簡単ですが、種を取る方は大変なので程々に遊ぶのが良いでしょう。

もう、いい加減止めてよね!



チヂミザサ



ノブキ

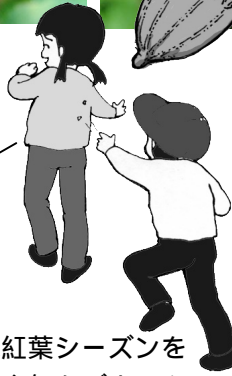


キンミズヒキ



キヤ!

よし、種で的当てよう!



ブナ林広場

ブナの森は紅葉シーズンを前にして、今年もブナハムシの影響で葉っぱがだいぶ落ちてしまい森の奥でも、枝々から秋の爽やかな空が見えます。爽やかな気候の中で、花の色も清々しく見える9月でした。

10月はいよいよ色鮮やかな紅葉が皆さんをお待ちしています。(細谷)

## ◆ 秋の花々 ◆



ミゾソバ

中旬から玄海広場はミゾソバやイヌタデの可愛いピンク色の小花で飾られています。



ダイヤモンドソウ

初旬に石跳川沿いを散策していたら、シットリ濡れて苔むした岩場に咲く群生が美しかったです。



トリカブト

9月9日、ガッサントリカブトの観察会が行われ、玄海広場ではイデトリカブトと合わせ2種を観察しました。



オニシオガマ

大ぶりのピンクが綺麗。中旬から下旬に元玄海の湿地で白花のウメバチソウと共に綺麗に咲き揃っています。

## 2012年10月 県立自然博物館主催 催し物案内

10月19日(金)

### 遺暦クラブ「七つの紅葉への挑戦」

月山では、七つの紅葉が楽しめると言われてます。何と言ってもこの時期は、ブナの原生林が見せる黄金の森でしょう。しかし、絶妙な黄葉タイミングに遭遇した人は多く居ません。

七つの紅葉を満喫するには何年もかかるのか。この難しくも楽しいテーマに、ぜひ挑戦してみませんか？

時 間 9:30 ~ 14:00

参加費 1500 円

持 物 雨具 昼食 防寒着 長靴

10月28日(日)

### 六十里越街道トレッキング

その昔、江戸中期から明治時代にかけて栄えたと言われる六十里越街道。この古き道を、R112 沿いの一本木沢(追分石)から、四谷山の神、弓張茶屋跡、志津口留番所跡を経て、玄海広場(ネイチャーセンター)まで歩きます。

錦秋の静かな古道を、じっくり歩くトレッキングです。

時 間 8:30 ~ 15:00

集合解散場所 ネイチャーセンター

参加費 1500 円

持 物 登山の一般装備 雨具 昼食 防寒着

11月7日(水)

### ネイチャートレイルハイキング「さよならブナ林」

晩秋のブナの森では、木々の葉が落ちて、見通しが利いてきます。雪が降る前のひと時、夏には見られなかった静かな風景に出会いながら、カワクルミコースから春木戸、ブナの原生林を歩きます。

今年最後のネイチャートレイルハイキングで、ブナ林に今年最後のあいさつを。

時 間 9:30 ~ 15:30

集合解散場所 ネイチャーセンター

持 物 登山の一般装備 雨具 昼食 防寒着

11月11日(日)

### 第2回 西川町カントリーウォーク「入間探訪」

今回のカントリーウォークは、西川町入間地区を歩きます。

稲刈りの終わった田園風景を眺めながら、かつて戊辰戦争時に庄内藩と天童藩が戦った森畑の古戦場跡を辿ります。

道沿いのお地蔵さんや不動尊、地元の方の昔話も伺えるでしょう。昼食は、寒河江大江城入間館跡のお蕎麦屋さんで頂きます。

地元の入間をのんびり歩く、歴史探訪の一日です。

時 間 9:30 ~ 14:30

集合場所 入間公民館(旧入間小学校前)

参加費 1500 円

持 物 雨具 防寒着 履きなれた靴

備 考 昼食は別途、各自負担となります。

HP・博物館広報には、上記を含め様々な催し物、詳細が掲載されています。ぜひご覧下さい。なお、お問合せ・お申込は、下記までご連絡下さい。

## 気温のはなし

今号では、2012年9月26日の気温変化を紹介し、山形市の記録と比較してみます。

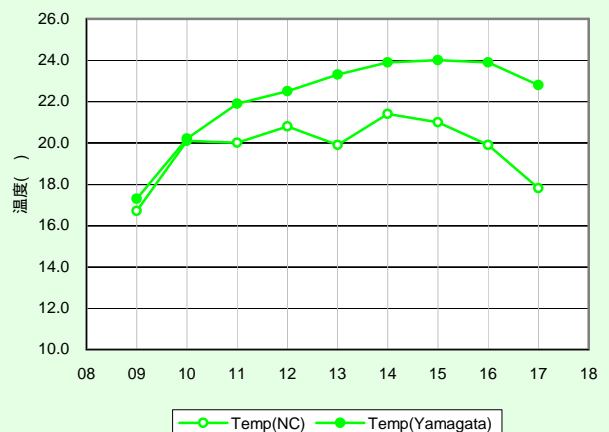
NCの気温は、平均が19.7、16.7~21.4で推移していました。この日の日中は、時折陽射も射し、過ごし易い一日でした。また、両地点とも、湿度の低い一日だったようです。

注目したいのは、昼下がりに夕方にかけて、NCの気温が急に下がっている点です。日中よく晴れていても、温度の高い状態が長続きせず、急速に冷えるのが、山の気温変化の特徴です。

ここNCでも、9月の上・中旬は暑い毎日でしたが、「暑さ寒さも…」の諺通り、20日前後から漸く落ち着いた秋らしい気候になってきました。いよいよ本格的な秋の到来です。

日も短くなり、山は日中と朝晩との寒暖の差が大きい時期に入っていきます。山行には、時間の余裕と、暖かい装備を。(松木)

2012年9月26日の気温変化(NC、山形市)



## 山形県立自然博物館 ネイチャーセンター

開園期間 5/1 ~ 10/31

開園時間 9:00 ~ 17:00

入園料 無料

休館日 毎週月曜日(月曜祝日の場合は翌日)

〒990-0734

山形県西村山郡西川町大字志津字姥ヶ岳 159

tel : 0237-75-2010 fax : 0237-75-2020

e-mail : [bunarin@atlas.plala.or.jp](mailto:bunarin@atlas.plala.or.jp)

U R L : <http://gassan-bunarin.jp>

## あとがき

「気温のはなし」でも触れましたが、実に暑い9月でした。入道雲に加え、雷雨が降った日もあったので、「まだ8月か？」と疑ったほどです。

しかし、雲や植物を観察すると、絹雲などの高い雲、冬芽、ススキなど、季節は静かにして確実に動いています。長かった暑さが、変化の進行を一部では遅らせては居るのでしょうか。

まもなく神無月。もう紅葉の時期です。山頂から降りてくるはずの色の変化を、今はとても楽しみにしています。(松木)